

逆走車の締め出しと渋滞後尾での追突注意喚起 ヘッセン州の交通安全研究プロジェクト、明日から開始

掲載日	2009年12月24日
国名	ドイツ
分類	安全
出典	ヘッセン州政府 広報(インターネット記事)
タイトル	Schluss mit Geisterfahrten, Warnung vorm Stauende Hessisches Forschungsprojekt DIAMANT für die Verkehrssicherheit von morgen

ヘッセン州政府主導のもと、ヘッセン州当局と自動車メーカーのオペル(Opel)、自動車サプライヤーのコンチネンタル(Continental)、交通管制のスペシャリストであるダムバッハ(Dambach)は、研究プロジェクト「ダイヤモンド(DIAMANT)」実施で提携関係を結んだ。「ダイヤモンド」とは「交通移動の安全を目的とした、適応性のあるネットワークおよびテレマティクス技術のインフラを用いたダイナミックな情報と応用」の頭文字を取ったものである。記者会見およびアウトバーン上での実演走行により、このプロジェクト・パートナー4者は、今後2015年までの開発目標を披露した。将来の自動車走行をよりスムーズにする方法、逆走車の早期の発見など、交通状態を改善する7つのテーマが発表された。

ダイヤモンドの主要テーマは事故リスクおよび渋滞の回避のための高度な技術の応用である。例えばアウトバーン上で曲がる際に間違った車線に出てしまい逆走しているドライバーは、道路脇に設置された自動感知・通報機器からのデータによって警告を受けるのですぐに対応できる。車両とデジタル化された標識板などのダイナミックなインフラは再度この情報を同じ進路上にいる他の車両に向けて発信し、無線信号で適時に危険を知らせる。その結果、後方を走る車両はこの状況に早期に対処し、しるべき行動を起こすことができる。

渋滞後尾は特に注意すべき事故多発地点であり、それゆえダイヤモンドのもう一つの主要テーマである。車が渋滞後尾にゆっくり近づいてくると、その車はすぐに周囲のすべての車両に警報を発する。警報を受けた周囲のドライバーはアクセルから足を離して減速し、ゆっくり渋滞の列に近づくことになる。警報は道路脇にある自動報知器を通じて交通センターにも届き、ダイナミックな標識板を通じて後続の車両に渋滞の警告を発するのに役立つ。

ディアマントのその他の交通安全への取り組みとしては、複数の車両の目前での全ブレーキに対する警告や、移動式や短期の道路工事現場の前での警告機能がある。

この渋滞回避策は、ヘッセン州交通センターによる更に精密な交通状況や移動所要時間の調査にも役立っている。ここでも自動報知器が活躍している。報知器は通過する車両の速度および位置、走行方向を匿名で記録する。道路交通から得たそれらの情報に基づいて、交通センターは交通状況を把握し、ドライバーが車両内のスクリーン上でデータを呼び出して運転スケジュールを立てるのに役立ててもらえるよう、移動所要時間を算出する。

自動報知器は交通センターに交通量の増加も知らせるので、その際は交通の流れを良くするための適切な速度規制への切り替えを作動させる。同様に交通センターは道路脇からの報知に基づき、交通の流れを良くするために路肩を一般車走行用に開放すべきかどうか判断するための追加情報を得ることができる。

ディアマントではデータの交換に際して、一般に用いられている無線ネットワークに似た新しいデータ通信基準である IEEE 802.11p が用いられる。

ディアマントの実演では、道路交通における様々な状況に対応可能な技術で、安全と交通流動性の改善においてどのような進歩があるのか、また洗練された通信ネットワークで達成可能かを明確に示されている。次の段階では、参加者が、交通における個別の措置の有効性を検証する。